

- 問1 植物に日光が当たったときに、空気中からとり入れた二酸化炭素と水から、でんぷんと酸素をつくるはたらきを何といいますか。
- 問2 池や川の水の中にすんでいる、ミジンコやゾウリムシ、ツボウムシ、ケンミジンコなどのことをまとめて何と呼びますか。
- 問3 植物が、おもに根から水を取り入れて、その水を体全体に行きわたらせるはたらきを何といいますか。
- 問4 植物が空気中の二酸化炭素をとり入れて酸素を出すのは、葉に何が当たっているときですか。
- 問5 アルミマークは、どのようなものにつけられているリサイクルのためのマークですか。
- 問6 顕微鏡けんびきょうで、プレパラートと対物レンズたいぶつレンズの距離きょりを動かしてピントを合わせるために回すねじの名前は何かですか。
- 問7 私たちが使ったあとの汚れた水よごれを集め、薬品などできれいにしてから川や湖、海に流す施設しせつを何といいますか。
- 問8 二酸化炭素を出さない仕組みで、車の中で電気を作りながら走る自動車は何ですか。
- 問9 食物連鎖しょくもつれんさとは、生き物どうしがどのような関係でつながっていることを表したものですか。
- 問10 プラスチック製の容器などにつけられている、リサイクルのためのマークを何といいますか。
- 問11 顕微鏡けんびきょうなどで観察するために、スライドガラスの上に見たいものをのせ、カバーガラスをかかけたものを何といいますか。
- 問12 動物が、植物やほかの動物を食べて生活しているのはなぜですか。
- 問13 グリーンマークがつけられる製品には、古紙が何%以上使われている必要がありますか。
- 問14 プレパラートを作るときに、見たいものをのせる土台となるガラスは何ですか。
- 問15 血液によって全身に運ばれた水分や養分は、ヒトや動物の体の中でどのような目的で使われますか。
- 問16 水の中に住む生物どうしが、食べる・食べられるという関係でつながり合っていることを何といいますか。

答え合わせ・解説 No.5

| | | |
|-----|---|---|
| 問1 | 答え 光合成 | 植物が日光を浴びて、二酸化炭素と水からでんぷんと酸素をつくりだすはたらきを光合成といえます。 |
| 問2 | 答え 水中の小さな生物 | 池や川の水の中には、ミジンコやゾウリムシなどの肉眼では見えにくい小さな生物がすんでいます。 |
| 問3 | 答え 植物の吸水 | 植物はおもに根から水を取り入れ、その水を体全体に行きわたらせています。このはたらきを吸水と呼びます。 |
| 問4 | 答え 日光 | 植物は、葉に日光が当たったときに、空気中の二酸化炭素を取り入れ、酸素を出します。 |
| 問5 | 答え アルミニウムやアルミ合金で作られた缶 | アルミマークは、アルミニウムやアルミ合金で作られた缶につけられており、資源を分けて回収するのに役立ちます。 |
| 問6 | 答え 調節ねじ | プレパラートと対物レンズの距離を動かしてピントを合わせるために回すねじを調節ねじといえます。 |
| 問7 | 答え 下水処理場 | 使ったあとの汚れた水を集めて、薬品などできれいにしてから自然に戻す施設を下水処理場といえます。 |
| 問8 | 答え 燃料電池自動車 | 車の中で発電しながら走り、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を出さない自動車を燃料電池自動車といえます。 |
| 問9 | 答え 「食べる・食べられる」という関係で、1本のくさりのようにつながっている関係 | 食物連鎖は、生き物どうしが「食べる・食べられる」という関係で、1本のくさりのようにつながっている関係のことです。 |
| 問10 | 答え プラマーク | プラスチック製の容器や包装には、リサイクルを正しく行うための目印として「プラマーク」がつけられています。 |
| 問11 | 答え プレパラート | 観察したいものをスライドガラスにのせ、カバーガラスをかけたものをプレパラートといいます。 |
| 問12 | 答え 自分で養分をつくることできないから。 | 動物は植物のように自分で養分をつくり出すことができないため、ほかの生物を食べて養分を取り入れる必要があります。 |
| 問13 | 答え 40%以上 | グリーンマークは、古紙を40%以上使用している製品につけられるリサイクルのためのマークです。 |
| 問14 | 答え スライドガラス | プレパラートは、スライドガラスの上に見たいものをのせ、その上からカバーガラスをかけて作ります。 |
| 問15 | 答え 生きていくため | 全身に運ばれた水分や養分は、ヒトや動物が生きていくために使われます。 |
| 問16 | 答え 水中の生物のつながり | 水の中に住む生物どうしも、食べる・食べられるという関係でつながり合っており、これを水中の生物のつながりと呼びます。 |